

「日々の理科」(第2472号) 2021, -4, 19

「フクロウの巣箱にムササビ入る」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢の山荘裏庭のカラマツの森には、小型鳥類の巣箱とは別に、特大の人工巣箱も設置してある。フクロウの営巣用もものだ。フクロウは子育てに、巨木の穴(うろ)が必要だが、現在の森では住宅難に陥っている。専用の大型巣箱を架けると、営巣するのだ。



これは2009年のフクロウ巣箱の様子だ。この年は3個の卵のうち2個が孵化し、2羽のヒナが巣立った。写真は巣立ち直前のヒナの姿である。ヒナは親鳥とちがって白っぽい羽色をしている。



巣箱内には赤外線カメラが設置され、24時間インターネット経由で、東京からも観察できるようにしてある。写真は巣立ち1週間前の2羽のヒナで、右側のヒナは、親鳥が運んできたネズミを丸飲みをしているところだ。



今日の早朝、そのフクロウ用の巣箱に「珍客」が出現した。何だこの毛むくじやらの「物体」は?! 「テン」か「ハクビシン」か或いは「けうげん」か?!



この珍客は、早朝に巣箱に入ってから日中一度も巣箱から出ないで、ヤマネのように丸くなって眠っていた。どうやら夜行性の動物のようだ。



過去の画像を調べて、ついに正体がわかった。長い尾、大きな目と耳、目の上の白い毛などの特徴から「ムササビ」に間違いはない。ムササビは冬と6月頃に子育てをするので、期待できる。野生哺乳類の子育てを、子どもたちと教室で観察できるのが楽しみだ。